

徳富蘇峰・蘆花生家 周辺まち歩きマップ

～明治・大正・昭和初期 水俣川河川改修前の面影を探して～

徳富家は武家でありましたが、自力で生活を営むために、5代目太多七が造り酒屋を興し、酒造や廻船、たばこ等を生業とする商家として発展しました。太多七の後継者は、本家の才次郎(北酒屋)、分家の茂十郎(浜田倉)と才駄(新酒屋)に分かれました。北酒屋と浜田倉は浜町に置かれ、蘇峰・蘆花生家は浜田倉に当たります。そのため、生家の主屋は武家屋敷ではなく、商家の建物である町屋の造りをしているのです。

徳富家が2軒の商家を置いた浜町とその周辺(洗切町、天神町1丁目・2丁目、幸町の一部)は、昭和7(1932)～昭和9(1934)年に水俣川の河川改修が行われる前まで、旧古賀川と旧洗切川に挟まれた中州でした。両河川の船着場では人や物資が盛んに行き交い、古くから水俣の商業を担っていました。

とくとみそほう るか せいが
徳富蘇峰・蘆花生家



徳富蘇峰・蘆花兄弟が幼少時を過ごした生家。県指定史跡。

現在の浜町周辺は、古くは戦国時代から町場として発展していた。江戸時代の末期頃には、水俣川の氾濫が繰り返されたことで、それまで上流の陣内を通過していた薩摩街道が、浜町へ付け替えられた。このことで、浜町周辺は、より水俣の人流・物流で栄える町となった。



現在の国道3号線が通過するまでの旧水俣橋から日新町、浜本通りへ続く主要道。

みなまたしりつ そほう きねんかん きゅうすいぶんこ
水俣市立蘇峰記念館(旧淇水文庫)



蘇峰からの寄付金を基に設立された町立図書館。淇水文庫の名称で昭和4(1929)年に開館した。国登録有形文化財。

てんまんぐう
天満宮



天満宮の周辺は、かつて「天神原」、現在は「天神町」といい、地域の名称の元になっている。

げんこうじ
源光寺



水俣城代の中村将監が開祖と伝わる。かつては旧古賀川に面していた。本堂仏壇裏の床下には、薩摩から来る隠れ信者を受け入れた「薩摩部屋」がある。

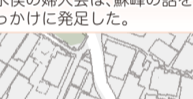
市指定文化財「薩摩部屋」→

ためともじんじゃ
為朝神社



源為朝が琉球に向けてここから出港する際、村人に与えたと伝わる衣の片袖が祀られている。

水俣市婦人会館



水俣の婦人会は、蘇峰の話をきっかけに発足した。

突き出し

かつて、蘇峰たちの祖父母の家があり、「蘇峰自伝」「死の蔭に」に書かれている。

公会堂

現在は図書館・公民館に建て替えられている。

突き出し(築出し)



源光寺の境内にあり、林産物の積み出し場。

源光寺



徳富家に引き止められた和尚が学業を授けた地。

おおそのこうじんじんじゃ
大園荒神神社



境内には、市指定文化財で樹齢450年以上と伝わる御木のムクノキがある。

えいたいばし
永代橋



昭和初期の河川改修まで、水俣繁栄の中心的存在だった橋。洪水により、たびたび流出し架け替えられている。

みなまたはちまんぐう はまはちまんぐう
水俣八幡宮(浜八幡宮)



かつては河口に突出し、現在の武道館辺りに相撲場があった。4月の例大祭には大勢の観客で賑わった。境内には蘇峰の愛郷の詩碑、拝殿には蘇峰が書いた神額がある。

神額内の「菅原正敬」は蘇峰の号の一つ→



相撲大会の賑わい

こんびら
金刀比羅神社

汐見町へ移転

八幡のしり

干潮の時は沖の方まで砂浜が姿を見せ、貝がたくさん採れた水俣(健所)

すざき ばとうかんのん
洲崎の馬頭観音



農作業のほか陸路の移動や荷運びに、牛馬の存在は欠かせなかった。河川改修により現在地に移された。当初は競馬大会も開催されていた中川原に建てられていた。

八幡町二丁目

中三原

干潮時には広大な中州となり、競馬大会や自転車競走等の催物が行われた

洲崎の馬頭観音



明治41年(1908)年設置古賀川の水運を利用して、大量の製品を運び出した

日本窒素肥料株式会社 水俣工場



旧古賀川 左が古賀地区、右が浜地区

塩専売所



浜町周辺には、石積み水路やその跡が多く見られる。水路は、旧河道に沿って緩やかなカーブを描くものや、真っ直ぐで整然とした古い道に沿うものがある。川のもたらす水運、水害の脅威に対応しつつ、整然とした町並を整えた商業の町の輪郭を伝えている。

西村庄五郎店と浜下通り



徳富一家が熊本へ転居した後、西村家が「衣屋」の屋号で商いをしていた。

えいたいばし
永代橋



石の積み方にも注目。増設したり、途中で積み方が変わったりしている。

- 史跡・寺社・歴史ある建造物
- ▲ 現在は見られない建造物・場所
- 地域名
- 旧河川・埋立前の海
- 現在の公共施設など
- お店(情報は裏面へ)

史料が伝える風景 ～水俣十二景～

「水俣十二景」(市教育委員会蔵)は、島原の商人が江戸末期から明治初期にかけての水俣川河口沿岸部を描いた墨絵です。この絵図からは、河川改修前の浜町周辺の様子がうかがえます。

描いた人

栗原政太重義

江戸末期～明治初期の島原の商人。八代海で旅客・貨物の運搬業や物資の交易を行っていた。晩年は水俣に定住した。



本人自画像



旧古賀川・旧洗切川の合流地点である洲崎



帰舟を迎える船津の漁村



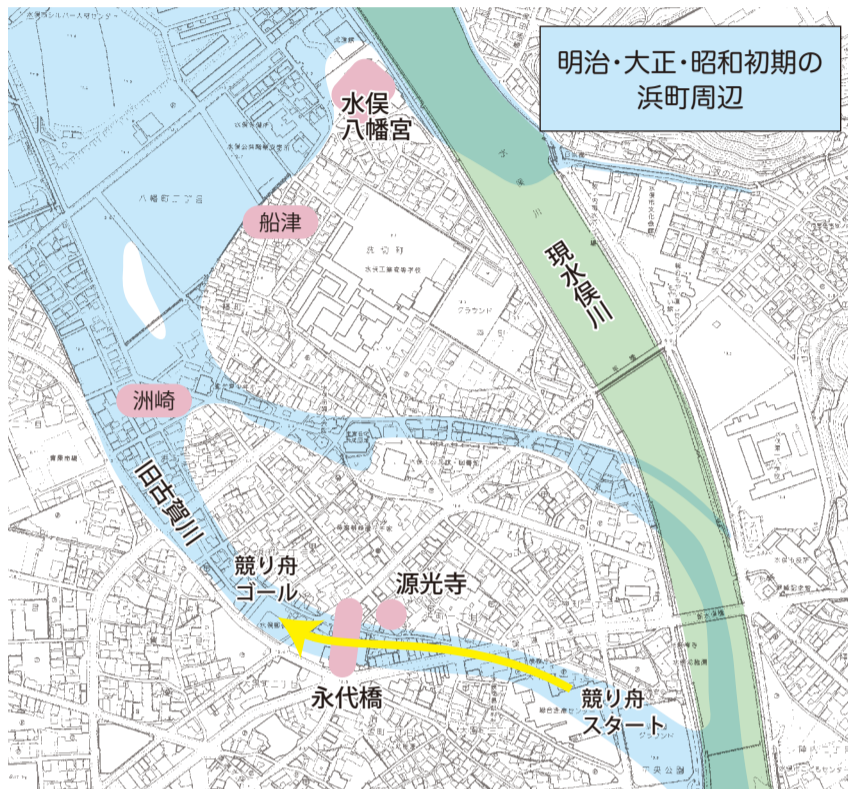
浜辺の松林の間に佇む八幡宮



太鼓橋姿の永代橋



タもやに浮かび上がる源光寺



明治・大正・昭和初期の
浜町周辺

水俣
八幡宮

船津

界水三

洲崎

旧古賀川

競り舟
ゴール

源光寺

永代橋

競り舟
スタート

消えた中州の町 ～水俣川の河川改修～

長らく水俣の経済・物流の中心を担った旧古賀川・旧洗切川の2河川は、河口の砂の堆積により、次第に大きな舟を付けられなくなり、度重なる洪水発生も大きな課題でした。このため、昭和7～9年にかけて2河川は1本に改修され、中洲は姿を消しました。物資の集散地としての役割は、同時期に修築が進められていた百間港などに移っていきました。



年不明：川の水面が橋桁に迫った永代橋



大正 12(1923)年：浜本通りの洪水被害

水俣の名物行事 ～競り舟～

夏の風物詩「競り舟」は、明治の中頃から始まったといわれ、河川改修前は旧古賀川で開催されていました。「一番出し」を出発点に、永代橋をくぐり抜け、現在の水俣郵便局付近がゴールでした。競り舟の日は、河岸や永代橋が見物客で埋め尽くされました。



現在の競り舟大会(例年7月末頃開催)



源光寺付近に集まる選手たち



旧古賀川の河口周辺



見物客で賑わう永代橋

近隣店舗情報 徳富蘇峰・蘆花生家周辺に位置するお店です。

1 味処 池田屋
営業：12:00～14:00
17:00～22:00
店休日：不定休
TEL：0966-63-3836
地元食材と魚介料理のお店です。定食もあります。

3 喜楽食堂
営業：11:00～15:00
17:00～20:30
店休日：土曜日
TEL：0966-62-2629
水俣ちゃんぽん発祥のお店です。日替り定食は平日限定。

5 矢城食堂
営業：昼・夜の営業
※お問合せください
店休日：不定休
TEL：0966-62-2846
地元根付く定食屋さん。ちゃんぽんや丼もあります。

7 博多製菓
営業：7:30～18:00
店休日：日曜日
TEL：0966-63-3836
「博多パン」の名前で親しまれているパン屋さん。

2 レストラン ナポレオン
営業：10:30～15:00
17:30～21:30
店休日：月曜日
TEL：0966-63-2328
創業60年以上。レトロな霧田気の洋食屋さん。

4 ピザ&カフェ ピエロ
営業：9:00～20:00
店休日：水曜日
TEL：0966-63-7439
おすすめのピザは、充実のラインナップから選べます。

6 和風ダイニング 遊食三昧
営業：11:30～14:00
17:30～23:00
※日は夜のみ
店休日：月曜日
TEL：0966-63-3990
ランチ営業は定食メニューやちゃんぽんがあります。

8 緒方こうじ屋
営業：8:00～18:00
日)9:00～15:00
店休日：年中無休
TEL：0966-63-2219
徳富蘇峰の母から受け継いだ麴で作られた味噌等を販売しています。



←詳細情報、その他の店舗情報は、
水俣観光情報サイト「でかっか水俣」
をチェック！